

科目名	立体造形演習Ⅱ		教員名	大須賀万里子	
Subject	Three Dimensional Art WorkⅡ				
開講年次	1	開講時期	後期	単位	4
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	60
実践的教育	○				
主な学習効果	１）美容技術とデザイン力、すなわち美容における実践力		２）表現力、すなわち芸術における実践力		
	—		◎		
科目の概要	立体造形演習Ⅰで体験し学んだ知識や技術、構想の方法などの基礎を土台に、多種多様な素材を用い複数の課題作品を制作する。新しい素材の特性・加工技術・応用法等体験しながら、基礎からより高度な幅広い造形制作を行なう。さらに関係のある作品の鑑賞や批評会を行い、修了研究へつなげていく。又、立体造形制作では、他の美術関連科目の技法や知識を用いる必要があり、美術全体の関連性をさらに広い視野で体験する。				
授業の目標	立体造形演習Ⅰの基本をもとに、平面と立体の造形上の仕組みや素材の知識、技法、形体、質感、色彩、発想、工程の多様性や応用性を知り、さらに工夫や再考する事で美術的表現をより広めることが出来るようになる。また、多様な課題作品制作の面白さ、ユニークさ、困難さを体験し、つくりたい作品を制作することが可能になれる。学んだ立体造形の美的知識や自由な発想で、個性的で美的なテーマを決定出来るようになり、これらを修了研究や美容作品に応用し、自分や他の人を美しく豊かにできる工夫や準備ができるようになる。				
時間外学習（予習・復習）	各実技の内容をより理解し上達できる為に予習・復習を行なうことは大切である。授業前に６０分程度行うこと。また、美術関連の展覧会、映像、書籍、美術大学の卒業制作展なども多く見ること。内容等はその都度指示する。				
教科書・教材	教科書	課題の説明、資料、作品鑑賞の手引きは、担当教員作成のものを配布。			
	教材	なし			
	使用設備・備品	木工室の設備備品を使用。			
	参考文献	美術関連の文献を必要に応じて指示。			
評価方法	説明や資料の理解度３０％ 課題の制作熱意、工夫１０％ 創造力・表現力・応用力６０％				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
学生へのフィードバックの方法					
	完成された作品について、個別に指導を行ないます。				
履修上の注意	授業の最初に内容の要点や説明等を行なうので、遅刻をしないこと。完成の課題作品ごとに写真撮影をすること。（修了研究ポートフォリオ用）授業内容の順序、回数は進行状況により変更になる場合もある。				
本科目履修と関連する資格	資格名	芸術学士			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	後期全般の授業内容説明と次回課題について説明・準備。参考作品鑑賞。	後期授業全体の流れと修了研究の関連や必要性を知り、作品鑑賞で近代から現代美術の傾向を認識することができる。	予習・自分の好きな美術作品、美術家しらべ書き出す。(60分) 復習・鑑賞で見た作品の感想等を書く。(60分)
第 2 回	後期全般の授業内容説明と次回課題について説明・準備。参考作品鑑賞。	後期授業全体の流れと修了研究の関連や必要性を知り、作品鑑賞で近代から現代美術の傾向を認識することができる。	予習・自分の好きな美術作品、美術家しらべ書き出す。(60分) 復習・鑑賞で見た作品の感想等を書く。(60分)
第 3 回	「ボディアートⅠ」 手と造形(1)	人体の中で特に手をテーマにする。その機能美を知り、構造や形の確認の為デッサンを体験することができる。。	予習・自分の手のさまざまなポーズのデッサンを行なう(60分) 復習・手の機能や骨格、美しさを再確認する。(60分)
第 4 回	「ボディアートⅠ」 手と造形(1)	人体の中で得に手をテーマにする。その機能美を知り、構造や形の確認の為デッサンを体験する事ができる。	予習・自分の手のさまざまなポーズのデッサンを行なう(60分) 復習・手の機能や骨格、美しさを再確認する。(60分)
第 5 回	「ボディアートⅠ」 手と造形(2)	腕を含む手の型取り準備。まず使用するダンボール素材の特性・加工法を知り、指定された形を作成することができる。	予習・手の美的なポーズをいろいろ試し複数きめる。(60分) 復習・身の回りのダンボール製品の用途や形の関連を調べる。(60分)
第 6 回	「ボディアートⅠ」 手と造形(2)	腕を含む手の型取り準備。まず使用するダンボール素材の特性・加工法を学知り、指定された形を作成することができる。	予習・手の美的なポーズをいろいろ試し複数きめる。(60分) 復習・身の回りのダンボール製品の用途や形の関連を調べる。(60分)
第 7 回	「ボディアートⅠ」 手と造形(3)	型取りの意味や使用方法を知り、自分の手のかたどり体験をする事ができる。	予習・復習・前期立体造形Ⅰで学んだ石膏素材の特質、使用法、注意点を書き出し再確認を行なう。(120分)
第 8 回	「ボディアートⅠ」 手と造形(3)	型取りの意味や使用方法を知り、自分の手のかたどり体験をする事ができる。	予習・復習・前期立体造形Ⅰで学んだ石膏素材の特質、使用法、注意点を書き出し再確認を行なう。(120分)
第 9 回	「ボディアートⅡ」 石膏造形(1)	手の枠型の石膏流し込み等、高度な技法を体験でき作品鑑賞でその応用作品例を多く知ることができる。	予習・構内や身の回りで石膏製のものを探してみる。(60分) 復習・作品鑑賞で見た作品や作者を調べる。(60分)
第 10 回	「ボディアートⅡ」 石膏造形(1)	手の枠型の石膏流し込み等、高度な技法を体験でき作品鑑賞でその応用作品例を多く知る事ができる。	予習・構内や身の回りで石膏製のものを探してみる。(60分) 復習・作品鑑賞で見た作品や作者を調べる。(60分)
第 11 回	「ボディアートⅡ」 石膏造形(2)	型取りを終えた石膏素材の手を、美的にする修正技法を体験することができる。	予習・手の美的造形デザインと彩色デザインを複数描く。(60分) 復習・デザインの見直しと訂正、最終決定(60分)
第 12 回	「ボディアートⅡ」 石膏造形(2)	型取りを終えた石膏素材の手を、美的にする修正技法を体験する事ができる。。	予習・手の美的造形デザインと彩色デザインを複数描く。(60分) 復習・デザインの見直しと訂正、最終決定(60分)
第 13 回	「ボディアートⅡ」 石膏造形(3)	アクリル絵の具の特質・技法を知り、石膏の手を美的、個性的に彩色造形することができる。。	予習・次回のテーマについて作品例等調べる。(60分) 復習・作品の写真撮影、批評会、見直し。(60分)
第 14 回	「ボディアートⅡ」 石膏造形(3)	アクリル絵の具の特質・技法を知り、石膏の手を美的、個性的に彩色造形することができる。。	予習・次回のテーマについて作品例等調べる。(60分) 復習・作品の写真撮影、批評会、見直し。(60分)
第 15 回	「レリーフⅠ」 木と粘土造形(1)	レリーフの意味、造形上の特徴を知り、造形に生かす事ができる。さらに木素材の板加工法を体験する事ができる。。	予習・レリーフで表現したいテーマを考える。前回課題作品の反省(60分) 復習・木の加工品を調べる(60分)

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 6 回	「レリーフⅠ」木と粘土造形 (1) 作品鑑賞	レリーフの意味、造形上の特徴を知り、造形に生かすことができる。さらに木素材の板加工法を体験することができる。	予習・レリーフで表現したいテーマを考える。前回課題作品の反省(60分) 復習・木の加工品を調べる(60分)
第 1 7 回	「レリーフⅠ」木と粘土造形 (2)	素材の木の特質・注意点等知り、粘土造形に用いる木心材の加工や応用を体験することができる。	予習・さまざまなレリーフ作品例を見て、デザインを決める。(60分) 復習・使用した木の名称や加工法の再確認(60分)
第 1 8 回	「レリーフⅠ」木と粘土造形 (2)	素材の木の特質・注意点等知り、粘土造形に用いる木心材の加工や応用を体験することができる。	予習・さまざまなレリーフ作品例を見て、デザインを決める。(60分) 復習・使用した木の名称や加工法の再確認(60分)
第 1 9 回	「レリーフⅠ」木と粘土造形 (3)	テーマに沿ったデザインを決める。使用する素材の粘土の特徴や扱い方法を知り、造形に生かす事ができる。	予習・各粘土の種類とそれぞれの特徴を調べる(60分) 復習・作品鑑賞で見た作家のほかの作品を調べる。(60分)
第 2 0 回	「レリーフⅠ」木と粘土造形 (3) 作品鑑賞	テーマに沿ったデザインを決める。使用する素材の粘土の特徴や扱い方法を知り、造形に生かす事ができる。	予習・各粘土の種類とそれぞれの特徴を調べる(60分) 復習・作品鑑賞で見た作家のほかの作品を調べる。(60分)
第 2 1 回	「レリーフⅠ」木と粘土造形 (4)	木製の心材上に下地用粘土を丁寧につける事でデザインした形にそった粘土制作を体験することができる。	予習・復習 デザインした形と粘土制作工程の見直し確認(120分)
第 2 2 回	「レリーフⅠ」木と粘土造形 (4)	木製の心材上に下地用粘土を丁寧につける事でデザインした形にそった粘土制作を体験することができる。	予習・復習 デザインした形と粘土制作工程の見直し確認(120分)
第 2 3 回	「レリーフⅠ」木と粘土造形 (5)	硬化した粘土加工に必要な彫刻刀の使用法を体験する。細部の仕上げ、彩色を行い完成することができる。	予習・作品の仕上げに必要な工程や彩色を考える(60分) 復習・写真撮影と批評会の反省等(60分)
第 2 4 回	「レリーフⅠ」木と粘土造形 (5) 作品鑑賞 批評会	硬化した粘土加工に必要な彫刻刀の使用法を体験する。細部の仕上げ、彩色を行い完成することができる。	予習・作品の仕上げに必要な工程や彩色を考える(60分) 復習・写真撮影と批評会の反省等(60分)
第 2 5 回	「レリーフⅡボックスアート」金属・布・紙等多種素材の混合造形 (1)	BOXアートの意味・内容・技法を知る。使う多くの素材の特徴や効果、加工、応用を知り、造形に生かす事ができる。	予習・表現したいテーマを決め、ラフデッサンをする。(60分) 復習・使用したい素材を探し集める(60分)
第 2 6 回	「レリーフⅡボックスアート」金属・布・紙等多種素材の混合造形 (1)	BOXアートの意味・内容・技法を知る。使う多くの素材の特徴や効果、加工、応用を知り、造形に生かす事ができる。	予習・表現したいテーマを決め、ラフデッサンをする。(60分) 復習・使用したい素材を探し集める(60分)
第 2 7 回	「レリーフⅡボックスアート」金属・布・紙等多種素材の混合造形 (2)	木で箱を作成する為、木工技術の基本を知る。箱の形を造形し彩色をする事ができる。	予習・復習 作品制作に必要な素材や道具、工程の見直しと確認(120分)
第 2 8 回	「レリーフⅡボックスアート」金属・布・紙等多種素材の混合造形 (2)	木で箱を作成する為、木工技術の基本を知る。箱の形を造形し彩色をする事ができる。	予習・復習 作品制作に必要な素材や道具、工程の見直しと確認(120分)
第 2 9 回	「レリーフⅡボックスアート」金属・布・紙等多種素材の混合造形 (3)	箱の内、外に、自分の表現したい世界を各種素材を用いて制作できる。造形の幅広さ、面白さを体験し向上する事ができる。	予習・復習 写真撮影、批評会の反省や確認等(120分)
第 3 0 回	「レリーフⅡボックスアート」金属・布・紙等多種素材の混合造形 (3) 批評会	箱の内、外に、自分の表現したい世界を各種素材を用いて制作できる。造形の幅広さ、面白さを体験し向上する事ができる。	予習・復習 写真撮影、批評会の反省や確認等(120分)